

平成 29 年度 第 1 回土木計画学委員会幹事会 議事録

日時：平成 29 年 4 月 27 日（木） 18：00～20：00

場所：土木学会 A 会議室

■ 出席者

委員長：屋井 鉄雄（東京工業大学），副委員長：赤松 隆（東北大学），藤原 章正（広島大学）

幹事長：羽藤 英二（東京大学）

H29 春大会開催校：倉内 慎也（愛媛大学）

委員兼幹事：内田 賢悦（北海道大学），金森 亮（名古屋大学），榊原 弘之（山口大学），中道 久美子（東京工業大学），原 祐輔（東京大学），平田 輝満（茨城大学），福山 祥代（東京大学）

オブザーバ：佐々木邦明（山梨大学），林 淳二（土木学会）

■ 資料

[資料 1] 前回幹事会議事録（案）

[資料 2] 学術小委員会報告

[資料 3-1] 大会運営小委員会報告

[資料 3-2] 2017 秋大会開催校準備状況報告

[資料 4-1] 平成 29 年度土木計画学研究委員会名簿

[資料 4-2] ホームページの修正・更新状況について

[資料 4-3] 国際セミナー実施状況

[資料 4-4] 全国大会研究討論会企画について

[資料 4-5] 平成 28 年度決算報告，平成 29 年度予算執行計画（案）

[資料 4-5] 土木計画学 50 周年関連行事の報告

[資料 5] 第 8 回アジア交通技術国際会議のセッション提案について

■ 議事

1. 委員長挨拶

屋井新委員長より挨拶として、昨年度の 50 周年関連行事への協力へのお礼と総括のお願い、また今後の活動方針として幹事会メンバでの京都合宿での議論紹介があった。

2. 前回議事録確認

- ・資料 1 に基づき前回議事録の確認が行われ、承認。

3. 学術小委員会報告（報告：榊原）

- ・2月24日〆切のD3特集号の投稿数は217編を受付（昨年は209編）
- ・50周年行事で問題提起された実践論文の取り扱いについて、以下の対応を行う
 - D3特集号と通常号との間で査読評価基準の「新規性」と「有用性」の記述が異なっており、特集号の記述を通常号に併せる方向で改正（来年度論文募集から反映予定）
 - 春大会ランチョンで査読者向けメッセージを述べる

（以下議論）

- ・実務者の投稿論文は論文形式を満たしていないことや既存研究の整理がなく、研究位置づけが弱いことも多い。講演時の座長のコメント対応、共著者の指導の徹底、大学教育など学会として対応できることは行っていく
- ・論説・提案型の論文の取り扱いについても検討していく

4. 土木計画学研究発表会の準備について（報告：倉内）

(1) 大会運営小委員会報告

- ・3月31日に大会運営小委員会を開催
 - 春大会の企業ブース出展希望2社のみであり、開設を見送る（出展料50万円の収入減）。ただし、愛媛大学の会場利用料は無料、ポスターボードのレンタルも不要で出展料減収は問題なし
 - 秋大会にて学生対象（卒・終了後1年以内まで）の優秀ポスター賞を設けることを決定し、内容について継続議論
 - チュートリアル・セッションの開設を検討しており、本年度は春大会前日開催の可能性を神戸大学小池先生らに打診中。基本的にボランティア活動となり、既に確立されている資料内容で実施することを目指す

(2) 秋大会準備状況（岩手大学）

- ・11月3日～5日で岩手大学での実施で準備中

- 会場使用料の割引を交渉中であるが、暖房利用の問題がある
- ・研究会後（11月5日夕方～6日）にエクスカージョンとして東日本大震災の被災地復興現場バスツアーを企画中。春大会開催後に案内の予定

(3) 春大会準備状況（愛媛）報告

- ・公共政策デザインコンペがなくなったが、セッション数が過去最高の102。12会場で運営予定であり、発表時間を確保するため論文数/セッションは例年以下に抑えた

(4) 次回春大会開催会場

- ・セッション数増加に伴う参加者の移動利便性の観点から、東京工業大学での開催で調整中

(以下議論)

- ・移動利便性が高いことは、参加者が少なくなる可能性もある。
- ・これまで土木計画学研究会はイベント型（国体開催方式）で地方開催されてきた。一方でTRBはワシントン開催が固定しており、業者運営なされている。関係者によるボランティア活動として対応できる限界規模になりつつあり、持続可能な運営体制の構築が必要
- ・参加費値上げで業者運営、大学外会場利用、民間企業にとって魅力ある企画・運営（平日開催など）など変更を検討していく
- ・全国大会の発表時間延長と学生発表の促進など、土木計画学の春大会、秋大会の発表件数の調整が可能かを検討していく

5. 平成29年度幹事担当タスクの検討状況報告

①委員会・幹事会メンバについて（報告：羽藤）

- ・赤松副委員長が6月春大会で退任し、東北大学奥村先生が後任予定
- ・研究会として実務者との関係強化を図るため副委員長を3人体制とする。6月春大会から任期2年で計量計画研究所（IBS）毛利氏が就任予定。これに伴い委員会承認後に会則変更、学会理事会承認の手続きを行う
- ・羽藤幹事長が6月春大会で退任し、山梨大学佐々木先生が後任予定
- ・委員兼幹事は9月全国大会で半数が交代予定（後任は新幹事長が中心に調整）

①活動評価・中期目標対応：特になし

②本委員会・全国大会対応（報告：福山）

- ・土木計画学研究委員会の新体制を報告

③研究小委員会対応（報告：内田）

- ・6月春大会で5件の小委員会が終了予定。ワンデーセミナー開催予定は内2件であり、

その他の小委員会にも引き続き開催依頼をする

- ・春大会では、小委員会が企画するセッションが多くなり、セッション数削減にもなることからセミナー開催など依頼する。同時にセミナー開催のインセンティブ設計も検討していく
- ・建設マネジメント部門が主で共同設置されていたインフラ PFI 小委員会は建設マネジメント部門で継続申請があった。ただし、計画学での継続申請はなく、これまで報告義務が発生するなど面倒を掛けているので、土木計画学研究会として継続するか確認を行う

④HP 担当（報告：福山）

- ・HP の更新・IPML の管理状況、CMS 化の状況を報告
- ・土木計画学研究論文集 No. 26（2009）と No. 27（2010）が J-Stage に登録・掲載されていないため、本年度に登録・掲載を目指す

（以下議論）

- ・J-Stage における土木学会論文集 D3 の成り立ちのリンクがおかしい（土木学会論文集へのリンクがない）。分冊の運営体制を行っている兵藤先生に連絡をし、対応を依頼する

⑤国際セミナー（報告：福山）

- ・H28 年度の開催状況について報告。年間で 24 回開催と増加傾向にある

⑥国際センター・出版委員会担当：特になし

⑦ワンデイセミナー・シンポジウム：特になし

⑧全国大会研究討論会（報告：中道）

- ・九州大学にて 9 月 11 日午後一セッションにて、「Diversity の視点から見直そう：土木計画学における研究と教育」と題した研究討論会を開催予定。メーリングリストなどで広報を行う

（以下議論）

- ・Diversity は土木計画学研究会のみでなく、土木学会全体でも活動しており、連携の可能性も検討していく

⑨総務担当：特になし

⑩財務 WG 担当（報告：福山）

- ・平成 28 年度決算報告、平成 29 年度予算案を報告。土木計画学研究論文集 No. 26（2009）と No. 27（2010）が J-Stage に登録・掲載料の他、国際化、実践研究など有効利用する

（以下議論）

- ・ワンデーセミナー開催促進として、開催補助も可能であるか継続的に議論する

⑪50 周年関連行事（報告：原）

- ・50 周年関連行事の振返りを行い、冊子化など活動報告を取りまとめ中

(以下議論)

- ・土木図書館に寄贈する冊子化や Web 公開に加えて，土木学会誌での報告も検討する

6. その他

(1) 第 8 回アジア交通技術国際会議 (CECAR) のセッション提案について (報告：佐々木)

- ・2019 年 4 月に東京にて CECAR 開催が決定. セッション提案依頼があり，土木計画学研究学として提案してほしい
- ・藤原副委員長と佐々木次期幹事長を中心に対応する

以上